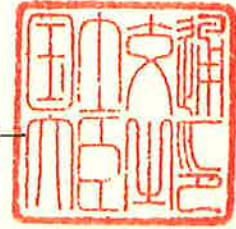


認 定 書

国住指第 2186 号
平成 30 年 11 月 7 日

日鐵住金建材株式会社
代表取締役社長 中川 智章 様

国土交通大臣 石井 啓一



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP120FL-0179
2. 認定をした構造方法等の名称
普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）

2. 荷重及び支持間隔

- ・床の支持間隔：2,400mm 以下～4,500mm
 - ・床の支持間隔が 2400mm 以下の場合 自重を含めた全荷重(w)：38.99kN/m² 以下
自重を含めた全荷重(w)×支持間隔(L)の2乗＝224.611 kN 以下
(一般的な支持間隔と荷重を表-1に示す。)
- 注) 全荷重＝固定荷重＋積載荷重

3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様
床板	デッキプレート 規格：JIS G 3352(デッキプレート) 鋼板の種類：SDP2 もしくは SDP2G 鋼板の厚さ(mm)：1.0～1.6 山高さ(mm)：90±1.5 働き幅(mm)：400±2 形状及び寸法：4. 構造説明図参照 コンクリート 規格：レディーミクストコンクリート(JIS A 5308) 種類及び呼び強度(N/mm ²)：普通コンクリート(呼び強度：18～45) 厚さ(mm)：60～110(デッキプレートの山上からの厚さ) 床板の総厚(mm)：150～200 支持条件：単純支持又は連続支持
ひび割れ拡大防止 用鉄筋等	仕様：①もしくは②のいずれかとする。 ①溶接金網 規格：JIS G 3551 線径(mm)：6 以上 間隔(mm)：150 以下×150 以下 かぶり厚さ(mm)：30 以上(コンクリート上面から) ②鉄筋(異形鉄筋) 材料名及び規格：(1)もしくは(2)のいずれかとする。 (1)鉄筋コンクリート用棒鋼(JIS G 3112) (2)鉄筋コンクリート用再生棒鋼(JIS G 3117) 直径(mm)：D10 以上 配筋間隔(mm)：200 以下×200 以下 かぶり厚さ(mm)：30 以上(コンクリート上面から)
スペーサー	種類：①もしくは②のいずれかとする。 ①鉄線 線径(mm)：4.5 以上 (規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上) 配置間隔(mm)：1,000 以下 ②セメントモルタルブロック 寸法：規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 配置間隔(mm)：1,000 以下

項 目	製 品 仕 様
接合方法	<p>はり と 床 板 の 接 合 仕 様 : 頭 付 き ス タ ッ ド 規 格 : JIS B 1198 寸 法 (mm) : φ 16 以 上 留 め 付 け 間 隔 (mm) : 300 以 下</p> <p>はり と デ ッ キ プ レ ー ト の 接 合 仕 様 : ① ~ ⑤ の い ず れ か と す る 。 ① ア ー ク ス ポ ッ ト 溶 接 ② す み 肉 溶 接 ③ 焼 抜 き 栓 溶 接 ④ プ ラ グ 溶 接 ⑤ 打 込 み び ょ う</p> <p>はり と デ ッ キ プ レ ー ト 端 部 の か か り 代 (mm) : 50 (-10) 以 上</p>

表-1 一般的な支持間隔と荷重

支持間隔(mm)	自重を含めた全荷重(kN/m ²)
2400 以下	38.99 以下
2500	35.93 以下
2600	33.22 以下
2700	30.81 以下
2800	28.64 以下
2900	26.70 以下
3000	24.95 以下
3100	23.37 以下
3200	21.93 以下
3300	20.62 以下
3400	19.43 以下
3500	18.33 以下
3600	17.33 以下
3700	16.40 以下
3800	15.55 以下
3900	14.76 以下
4000	14.03 以下
4100	13.36 以下
4200	12.73 以下
4300	12.14 以下
4400	11.60 以下
4500	11.09 以下

注) 支持間隔が表の中間の値の場合は $WL^2=224.611$ kN 以下であることを確認すること

W : 自重を含めた全荷重(kN/m²)

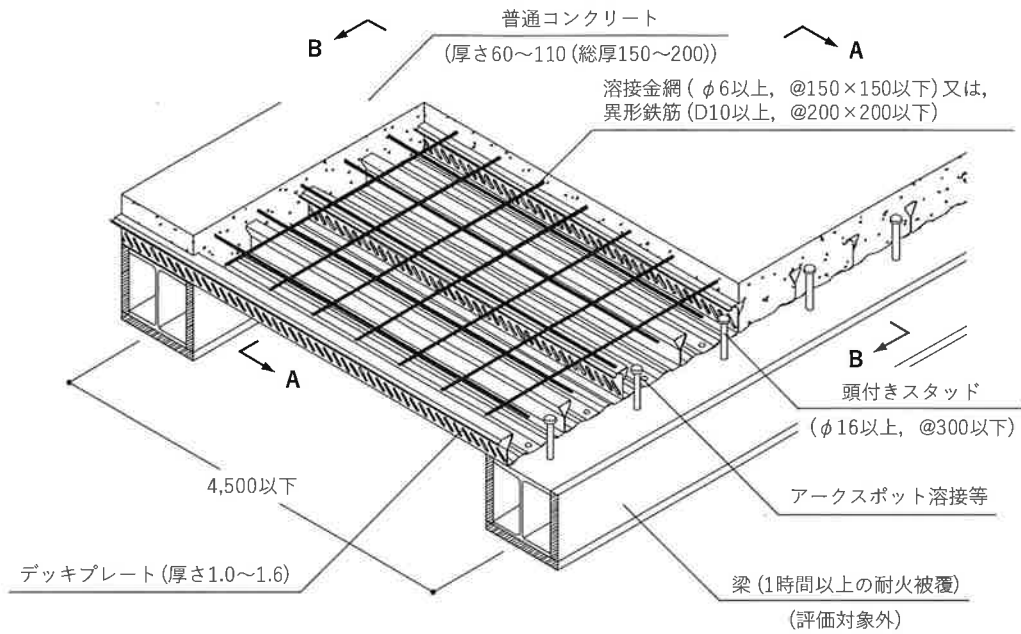
L : 支持間隔(m)

4. 構造説明図

(1) 透視図

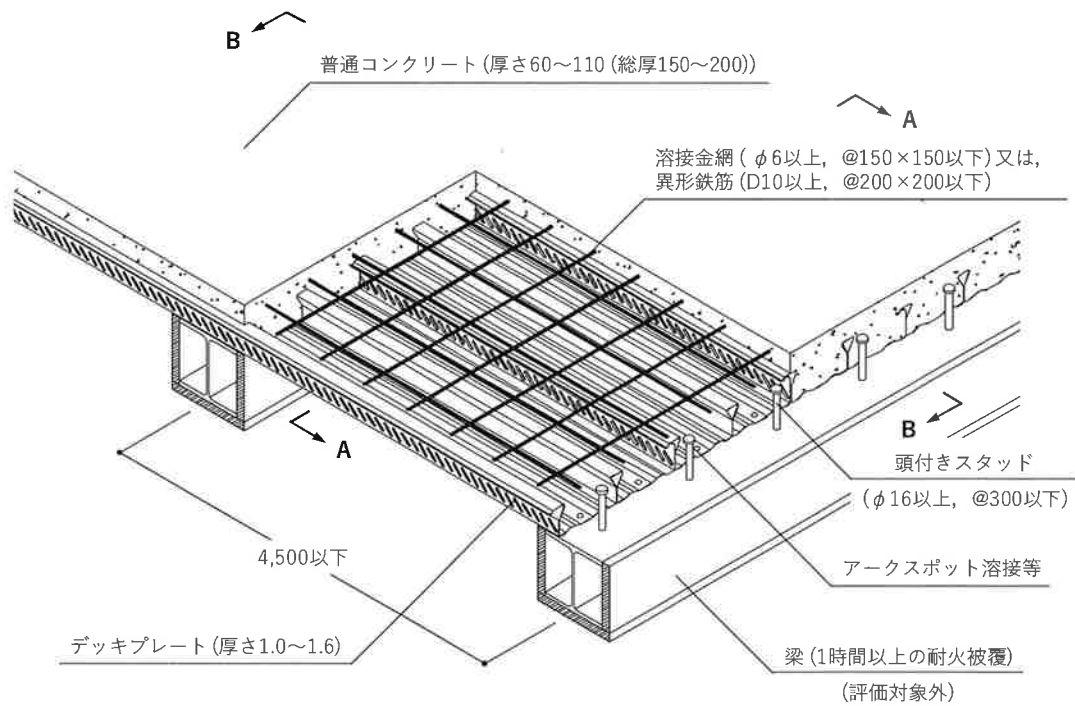
(1) - 1 デッキプレートが単純支持の場合

(単位：mm)



(1) - 2 デッキプレートが連続支持の場合

(単位：mm)

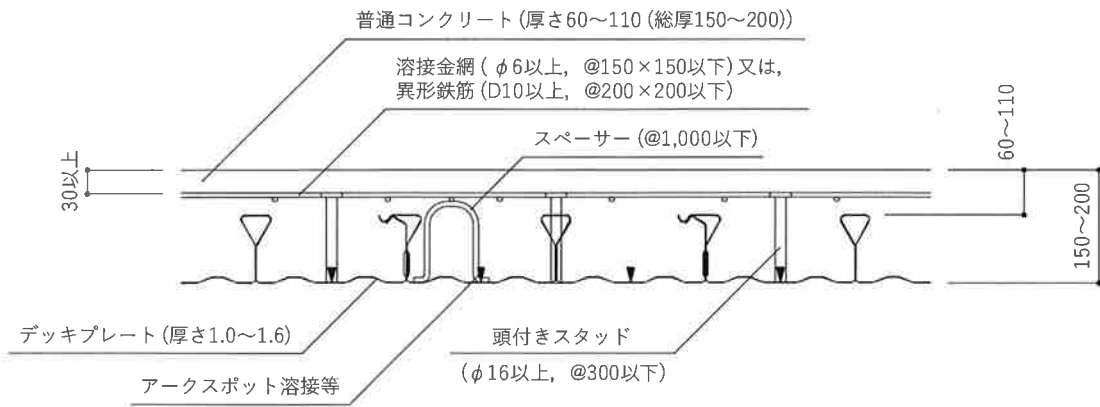


(2) 断面図

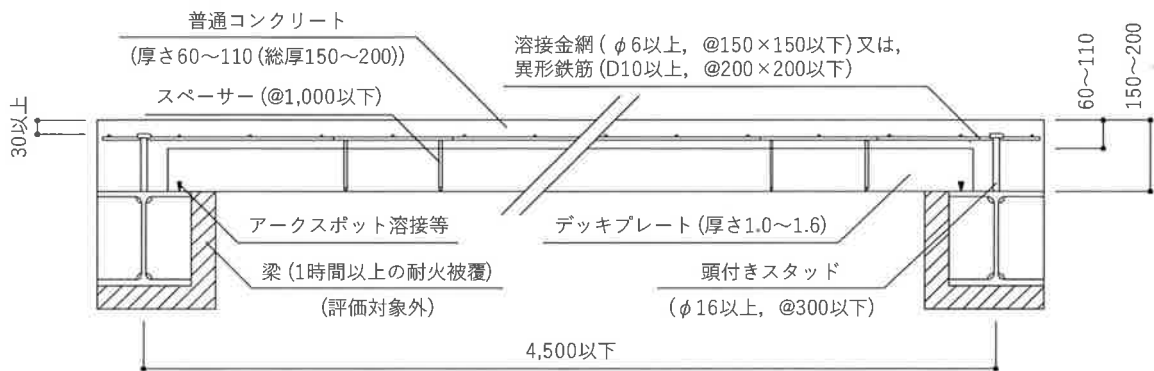
(2) - 1 デッキプレートが単純支持の場合

(単位：mm)

i) A-A断面図



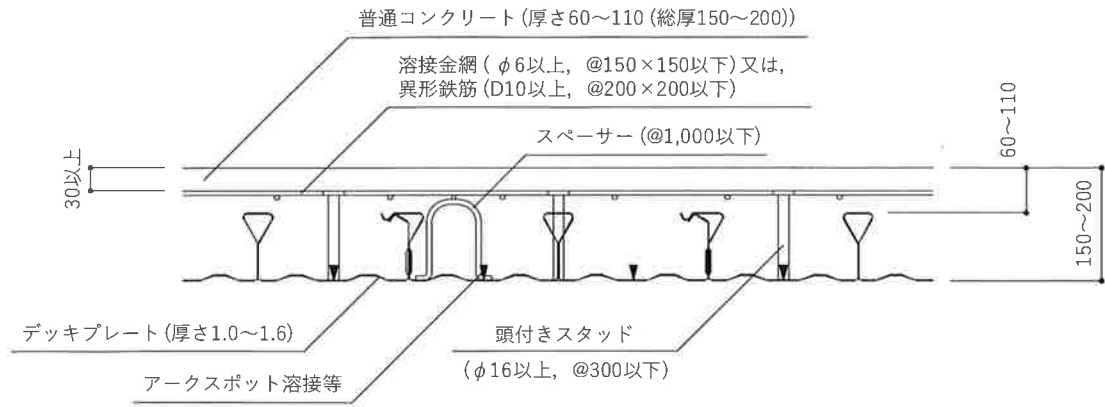
ii) B-B断面図



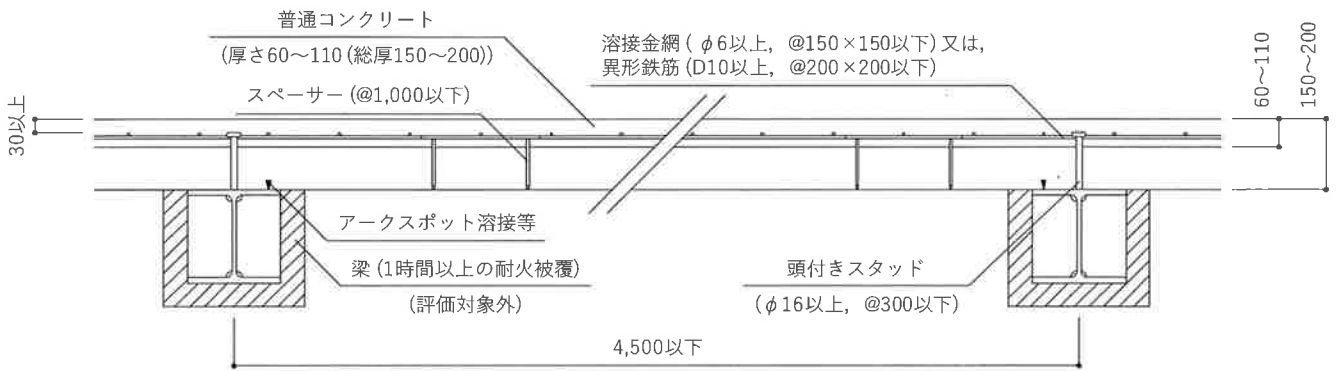
(2) - 2 デッキプレートが連続支持の場合

(単位：mm)

i) A-A断面図

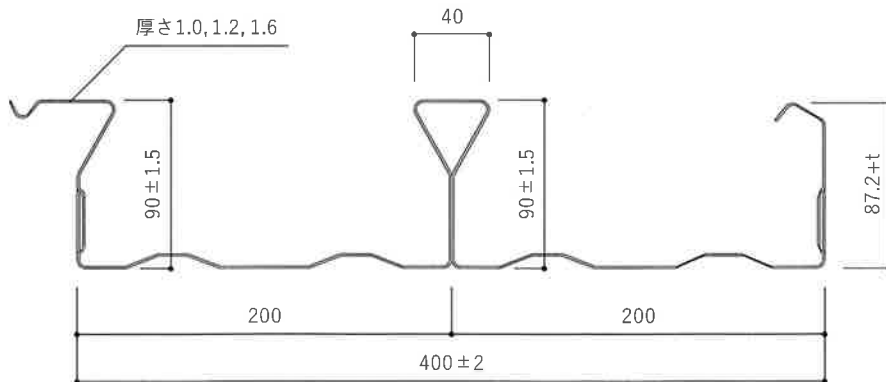


ii) B-B断面図



(3) デッキプレートの形状及び寸法

(単位：mm)



5. 施工方法

(1) デッキプレートの敷込み及び梁とデッキプレートとの接合

デッキプレートを設置する梁芯相互の間隔が4,500mm以下であることを確認する。デッキプレートを墨出し線に合わせて梁に配置する。「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」（日本建築学会）に準拠して、デッキプレートの端部と梁とのかかり代を50mm（施工管理値としての許容差-10mm）以上とし、この両者をアークスポット溶接等で仮止めする。

(2) 梁と床板との接合

梁と床板とは、頭付きスタッドにより接合する。頭付きスタッドの接合方法は、平成14年国土交通省告示第326号の規定または「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」（日本建築学会）もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会）によるものとする。

(3) デッキプレートの長さ方向相互の接合

デッキプレートの長さ方向相互は嵌合により接合する。必要に応じて、その嵌合部を溶接、ねじ等で固定する。

(4) デッキプレートの小口処理

必要に応じて、デッキプレートの山部の小口を鋼板等で塞ぐ。

(5) ひび割れ拡大防止用鉄筋の配置

溶接金網または異形鉄筋は、スペーサー（配置間隔1,000mm以下）を用いて、床板上面からのコンクリートのかぶり厚さが30mm以上となるように床全面に敷き並べる。

溶接金網は、直径が6mm以上、網目間隔が150×150mm以下のものとする。異形鉄筋の直径はD10以上とし、配筋間隔は縦及び横とも200mm以下とする。異形鉄筋の加工及び組み立ては、「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事(日本建築学会)」(以下、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」という)に準拠する。

(6) コンクリートの打込み

コンクリートの打込みは、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。コンクリートは、補強材の移動によりかぶり厚さ不足が生じることのないように、また、所定厚さを確保するように不陸なく打込む。

(7) コンクリートの仕上げ

コンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

(8) コンクリートの養生

コンクリートの養生は、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠するが、初期には湿潤養生を行う。